

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野市遺跡地図作成事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当あり

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名		予算科目	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度
	課	文化財課	佐野市遺跡地図作成事業			款	10	新規or継続	継続事業
	係	文化財保護係				項	4	市単独or国県補助	国県補助事業
政策体系	体系コード	2321	名称		事業期間	目	5	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	R4	実施方法	一部委託
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	R7	事業分類	計画策定・管理事業
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存						
	基本事業	1	歴史・文化資源の調査と適切な保存・継承						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	佐野市内の埋蔵文化財包蔵地の範囲について、現地調査・確認を行い市域全体をカバーする遺跡地図を作成する。令和4から6年度で現地踏査を実施し、その整理・編集を行い令和7年度に『佐野市遺跡地図』を刊行し、埋蔵文化財保護行政の基本ツールとして頒布・活用する。刊本と併せて電子データの作成も行いデジタル化への対応も行う。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	遺跡地図が作成されることにより、市民・事業者に包蔵地の範囲を明確に示し、適切な対応・指導をすることにより、埋蔵文化財の保護に努めることができる。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		地図に反映された埋蔵文化財包蔵地	箇所	値が大きいほど良い	602				

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	令和4から6年度に実施した現地踏査の結果を整理・編集し、『佐野市遺跡地図』を刊行した。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		現地調査済面積	k㎡	118	237	356	356
		佐野市遺跡地図作成済面積	k㎡	84	84	84	356
		事業費計	千円	4,944	4,749	4,719	5,881
		一般財源	千円	813	3,684	3,686	4,768
		特定財源（国・県・他）	千円	4,131	1,065	1,033	1,113
		（うち受益者負担）	千円				

(3) 活動による効果

効果説明	当初の想定を目標値にしていたが、想定以上の包蔵地が発見された。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		地図に反映された埋蔵文化財包蔵地	箇所	403	403	403	718	効果が上がった	○

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標			
	効果が上がった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標	達成	1指標	
	効果が下がった指標数	0指標	未達成		
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が上がった	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用が増加した	※10万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

当初の計画どおり、事業は進捗した。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
--	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	唐沢山城跡保存整備事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	3-⑤	市長公約②	Ⅵ-⑥	総合戦略	該当あり
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度
	課	文化財課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	唐沢山城跡保存整備係				項	4	市単独or国県補助	国県補助事業
政策体系	体系コード	2321	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	5	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	平成26年度	実施方法	一部委託
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	令和11年度	事業分類	その他市民に対する事業
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承						
	基本事業	1	歴史・文化資源の調査と適切な保存・継承						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	本市を代表する歴史・文化遺産である唐沢山城跡はその貴重性を認められ、平成26年3月に国指定史跡となった。指定後は史跡を良好な状態で未来に伝えるため、長期的な保存管理と活用・整備が求められるが、東日本では希少な本城跡を象徴する石垣ですら崩落等が発生するなど危機的な状況にある。この市内唯一の国指定史跡を適切に保存管理しながら、歴史・文化を活かしたまちづくりへ活用していくためにも当事業の推進を図る。なお、緊急性の高い城跡中心部の石垣保存整備を優先的に行うとともに、史跡の調査を進めながらガイダンス施設の在り方について検討する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	唐沢山城跡を適切に保存・継承し、多様な活用を図るため整備を行う。唐沢山城跡について情報を発信し、史跡の重要性や当事業の必要性についての理解向上を図る。
-------------------------	---

(3) 目標値

		↓選択して下さい		後期計画				
効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11	
各種整備の実施	件	値が大きいほど良い	1	1	2	2	2	2
講演会・講座等の参加者	人	値が大きいほど良い	270	270	270	270	270	270

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・唐沢山城跡保存整備調査指導委員会の開催（10,1,3月） ・同委員会委員個別指導の実施（7,12月(2回)） ・石垣の清掃・点検の実施（通年） ・西麓根小屋の除草業務委託を実施（6～7月） ・保存整備に伴う調査業務委託を実施（6～3月） ・根小屋単人屋敷のトレンチ調査（9～10月） ・本丸東・南城等の石垣カルテ作成業務委託を実施（9～3月） ・南城の植生整備（樹木伐採業務委託）を実施（1～3月） ・ボランティア団体「史跡唐沢山城跡保存会」活動支援（通年） ・ボランティア養成講座の開講（9～11月） ・唐沢山城跡保存整備事業講演会（3月）
--------------------------	--

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
保存整備調査指導委員会	回	3	2	3	3
各種設計・整備	件	1	1	1	1
講演会・講座等	件	1	2	2	2
事業費計	千円	18,200	10,924	16,820	15,065
一般財源	千円	15,020	7,388	10,626	9,972
特定財源（国・県・他）	千円	3,180	3,536	6,194	5,093
（うち受益者負担）	千円	0	0	0	0

(3) 活動による効果

効果説明	史跡内での各種整備については、南城の植生整備（石垣の保護や眺望の確保を目的とする樹木伐採等）を進めた。 また、講演会等については、昨年度の国指定史跡10周年記念事業（講演会や史跡の特別公開等）より規模を縮小して実施したため、参加者は大幅に減った。
------	--

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
各種整備の実施	件	1	1	1	1	効果は変わらない	○
講演会・講座等の参加者	人	3	255	400	120	効果が下がった	×

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標
	目標未達成だった指標数	1指標
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標
	効果は変わらない指標数	1指標
	効果が下がった指標数	1指標
	指標全体	効果が下がった
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用は下がった	

※ 1 0 万円以上の増減により判断

		効果		
目標達成	達成 未達成 目標未設定	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
		1指標		
			1指標	

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

これまで史跡の保存を最優先に整備に取り組んできたが、昨年度に引き続き史跡の活用につながる視点場（南城）周辺の植生整備を実施した。その成果に対しては、史跡唐沢山城跡保存整備調査指導委員会より高い評価を得たほか、史跡への見学者の方々からも好評が寄せられた。また、同委員会からは、史跡の魅力とともに整備の成果についても情報を発信をするべきとの指導があったことから、積極的な事業の周知や普及啓発を図っていく。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☒ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 事業スケジュール全体の中で、史跡の保存整備を最優先としつつ、活用のための整備についてもAR等のデジタル技術の活用や、情報発信拠点としてのガイダンス施設の在り方について検討を進める。
---	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	天明鋳物生産用具保存継承事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	3-⑤	市長公約②	Ⅵ-⑥	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課		天明鋳物生産用具保存継承事業		款	10	新規or継続	継続事業
	係	文化財保護係				項	4	市単独or国県補助	国県補助事業
政策体系	体系コード	2321	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	5	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	文化財保護法		開始年度	R6	実施方法	一部委託
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度		事業分類	その他内部事務事業
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存						
	基本事業	1	歴史・文化資源の調査と適切な保存・継承						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	天明鋳物生産用具は「佐野の天明鋳物生産用具及び製品」として、令和6年3月、国重要有形民俗文化財に指定された。 劣化が激しく博物館に寄託できなかったコシキ(鋳鉄用溶解炉) 2基の修繕を実施するとともに、今後の生産用具の保管・公開・活用について検討を行う。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	国指定された天明鋳物生産用具を適切に保存する。	(3) 目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		修繕を要する国指定生産用具	点	値が小さいほど良い	1	1			

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	・6/1～3/23 重要有形民俗文化財「佐野の天明鋳物生産用具及び製品」 コシキ修繕	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		修繕した国指定生産用具	点			0	1
		事業費計	千円	0	0	1,914	5,632
		一般財源	千円				2,850
		特定財源（国・県・他）	千円			1,914	2,782
		（うち受益者負担）	千円				

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明	修繕を要する生産用具コシキ1基を修繕した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		修繕を要する国指定生産用具	点			2	1	効果が上がった	○

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標			
	効果が上がった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標	達成	1指標	
	効果が下がった指標数	0指標	未達成		
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が上がった	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和7年度は生産用具のコシキ1基を修繕し、令和8年度に残り1基の修繕を行う。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 令和8年度に残り1基の修繕を行う。また生産用具の適切な保管・公開・活用についての検討を継続して行う。
---	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	指定文化財保存修復支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課		指定文化財保存修復支援事業		款	10	新規or継続	継続事業
	係	文化財保護係				項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2321	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	5	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	文化財保護法、文化財保護条例、指定文化財保存事業費補助金交付規則		開始年度	H23	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度		事業分類	その他市民に対する事業
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存						
	基本事業	1	歴史・文化資源の調査と適切な保存・継承						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野市の歴史や文化を語るうえで、貴重であるが、指定から年月がたち、破損や劣化したものが多数ある。これらの修理・復旧、その他に関する保存事業には、多額の費用を要する場合が多く、その負担に堪えない場合があるため、その経費の一部について補助金を交付し、適切な保存保護を図る。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	①文化財所有者等の負担を軽減する。 ②文化財の保存事業を行うことで、文化財を後世へ伝える。 ③市の歴史・伝統文化・文化財を大切にしたいと考える市民を増やす。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		市内にある国・県・市指定等文化財数	件	値が大まかいほど良い	278	275	276	277	278
		佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合	%	値が大まかいほど良い	95	95	95	95	95

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	対象文化財：唐沢山城跡（国指定史跡） 補助した事業内容：危険木伐採（引局南東）	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		文化財修理に関して助成を希望された件数	件	1	1	1	1
		保存事業に補助金交付を実施した件数	件	1	1	1	1
		事業費計	千円	200	85	400	295
		一般財源	千円	200	85	400	295
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	文化財件数について、2件の増。 佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合は微減した。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			市内にある国・県・市指定等文化財数	件	269	274	274	276	効果が上がった	×
			佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合	%	89.1	87.7	89.6	87.6	効果が下がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 (R7と過去3年平均の指標値増減)	目標達成した指標数	0指標	効果	効果		
	目標未達成だった指標数	2指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	1指標		達成	未達成	
	効果は変わらない指標数	0指標		1指標		1指標
	効果が下がった指標数	1指標		目標未設定		
	指標全体	効果は変わらない				
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用は下がった	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

所有者へ制度の周知により活用を促し、適切に保存された文化財に触れる機会を市民に提供したい。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
	ホームページ等による周知を行う。

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	文化財保護審議会運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課			款	10	新規or継続	継続事業
	係	文化財保護係			項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2321	名称		目	5	義務or任意	義務的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	事業期間	開始年度	H17	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度		事業分類	審議会等運営事業
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					
	基本事業	1	歴史・文化資源の調査と適切な保存・継承					
			根拠法令、条例等					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	地方自治法、佐野市文化財保護条例に基づき、教育委員会の附属機関として文化財保護審議会が設置されている。審議会は、教育委員会からの諮問を受け、文化財の保存・活用について調査・審議し、教育委員会に建議する諮問機関であり、その事務執行に伴う経費を計上する。また、委員の資質向上のため先進地視察研修を実施する。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	審議会が活動しやすい環境を提供し、審議会委員の活発な議論や防火査察への参加を通し、市内の文化財の適切な保存・保護を援助し、文化財の積極的な活用を促す。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		審議会委員出席率	%	値が大きいほど良い	100	100	100	100	100
		防火査察件数	件	値が大きいほど良い	1	1	1	1	1

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	佐野市文化財保護審議会委員数 9人 【事業内容】 ・7/29 第1回文化財保護審議会開催(8人出席) ・11/5 視察研修開催(太田市・伊勢崎市 5人出席) ・1/26 防火査察に参加(郷土博物館 7人出席) (個別指導) ・4/8 「秋山のシダレザクラ(市天然記念物)」(出井委員)	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		審議会開催数	回	2	2	1	1
		審議会委員延べ出席者数	人	16	18	9	8
		事業費計	千円	124	189	178	160
		一般財源	千円	124	189	178	160
		特定財源(国・県・他)	千円				
		(うち受益者負担)	千円				

（3）活動による効果

効果説明	令和7年度は審議会に委員1名の欠席があった。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			審議会委員出席率	%	89	100	100	89	効果が下がった	×
			防火査察件数	件	1	1	1	1	効果は変わらない	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果	達成	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	1指標					
	効果が上がった指標数	0指標			1指標		
	効果は変わらない指標数	1指標				1指標	
	効果が下がった指標数	1指標					
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が下がった		未達成			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し			目標未設定			

※ 1 0 万円以上の増減により判断

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

年度当初に各委員の年間スケジュールを把握した上での日程設定に務め、全員出席できるよう調整する。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 各委員のスケジュールを確認し、全員出席できるよう調整する。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	全国史跡整備市町村協議会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課		全国史跡整備市町村協議会		款	10	10	新規or継続	継続事業
	係	唐沢山城跡保存整備係		参画事業		項	4	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2321	名称	根拠法令、条例等		目	5	5	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	平成31年度	平成31年度	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	-	-	事業分類	参画事業
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承							
	基本事業	1	歴史・文化資源の調査と適切な保存・継承							

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	全国史跡整備市町村協議会（以下、全史協）及び全史協関東地区協議会に参画することで、国指定史跡を有し文化財を活かしたまちづくりを推進する全国の市町村（R6現在630団体）と情報交換や連携を図るとともに、文化庁からの指導等を得やすくなることで、本市内唯一の国指定史跡唐沢山城跡の望ましい整備の推進を図る。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	協議会に参画することで全国の加盟市町村との情報交換を図り、史跡整備に関する最新の情報を共有し、唐沢山城跡の保存や活用に係る整備に結びつける。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		協議会加盟市町との情報交換件数	件	値が大きいほど良い	8	9	10	11	12
		唐沢山城跡内の保存整備件数	件	値が大きいほど良い	1	1	2	2	2

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・全史協の負担金（40,000円）支出 令和7年度大会（愛知県小牧市）欠席 ・全史協関東地区協議会の負担金（10,000円）支出 令和7年度総会及び研修会（群馬県富岡市）出席 ・全史協に加盟する栃木県史跡整備市町村協議会 令和7年度大会（栃木県大田原市）出席 担当者研修会（栃木県日光市）出席	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		大会・研修会等参加	回	0	2	2	3
		機関誌収集	部	1	1	1	1
		事業費計	千円	40	50	50	50
		一般財源	千円	40	50	50	50
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	茨城県県西地区文化財研究協議会（4市・1町）の唐沢山城跡への視察対応により情報交換件数が増えた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		協議会加盟市町との情報交換件数	件	2	4	4	9	効果が上がった	○
		唐沢山城跡内の保存整備件数	件	1	1	1	1	効果は変わらない	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 (R7と過去3年平均の指標値増減)	目標達成した指標数	2指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	1指標	1指標	1指標	
	効果は変わらない指標数	1指標			
	効果が下がった指標数	0指標			
指標全体		効果が上がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

全史協の各事業に参加することができなかったことから、全国の加盟自治体との広域的な情報交換を行うことができなかった。目標を達成するためには栃史協を含め各団体の事業に積極的に参加する必要がある。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☒ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 各協議会の事業予定を事前に把握し、可能な限り大会等へ出席して情報交換の機会を増やす。また、各協議会の事業以外においても、史跡の保存や活用にに関して各加盟自治体との報告書交換や問い合わせ対応を行うなど情報収集を行う。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	文化財保護調査事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名		予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課	文化財保護調査事業			款	10	新規or継続	継続事業
	係	文化財保護係				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2321	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	5	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	文化財保護法 文化財保護条例		開始年度	H17	実施方法	一部委託
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度		事業分類	その他市民に対する事業
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存						
	基本事業	1	歴史・文化資源の調査と適切な保存・継承						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野市域における文化財の適切な保存活用を促進するための各種の施策を展開する。主な内容は下記の通り。 ・市指定史跡や天然記念物等の草刈り、清掃作業等の維持管理 ・埋蔵文化財包蔵地内の開発行為に係る指導・協議及び試掘・確認調査や記録保存調査の実施
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市内に現存する文化財等の適切な保存活用を図る。 また、開発工事等との調整により埋蔵文化財の破壊を防ぐ。 これらの手法を通し、文化財を大切にしようとする市民を増やす。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		市内にある国・県・市指定等文化財数	件	値が大まかいほど良い	278	275	276	277	278
		埋蔵文化財包蔵地毀損件数	件	値が大まかいほど良い	0	0	0	0	0
		佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合	%	値が小さいほど良い	95	95	95	95	95

（3）目標値

↓選択して下さい

後期計画

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・市指定史跡の草刈り・清掃作業等の維持管理 葛生人骨出土跡の駐車場清掃委託（通年実施）、赤見城跡の草刈業務委託（6月・10月）、佐野城跡の犬走草刈(8月)、葛生人骨出土跡・石灰谷焼窯跡の草刈委託（10月）、木浦原のザゼンソウ群落の草刈・清掃の実施（10月） ・開発行為に伴う埋蔵文化財保護の指導・協議 前年度実績の集計（5月）、埋蔵文化財包蔵地に関する照会に対する回答（通年）、文化財保護法に基づく発掘届出の県への進達等事務（通年）	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		市指定文化財等の管理実施件数	件	12	10	11	8
		文化財保護法第93・94条届出受理数	件	76	67	89	72
		事業費計	千円	1,445	3,433	5,285	1,780
		一般財源	千円	1,445	3,433	3,827	1,780
		特定財源（国・県・他）	千円			1,458	
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	文化財件数は2件の増。 埋蔵文化財包蔵地の毀損はなかった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		市内にある国・県・市指定等文化財数	件	269	274	274	276	効果が上がった	×
		埋蔵文化財包蔵地毀損件数	件	0	0	0	0	効果は変わらない	○
		佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合	%	89.1	87.7	89.6	87.6	効果が上がった	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	目標達成	達成 未達成	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標			効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均 の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標			1指標	1指標	
	効果は変わらない指標数	1指標			1指標		
	効果が下がった指標数	0指標					
	指標全体	効果が上がった					
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用は下がった			※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

市内に現存する文化財等の適切な管理ができた。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 昨年同様文化財等の適切な管理。
---	-----------------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	田中正造旧宅一般公開支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課		田中正造旧宅一般公開支援		款	10	新規or継続	継続事業
	係	文化財保護係		事業		項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2321	名称	根拠法令、条例等		目	5	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	田中正造旧宅管理運営費補助金交付要綱、田中正造旧宅入場料補助金交付要綱	事業期間	開始年度	H16	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度		事業分類	支援事業
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存						
	基本事業	1	歴史・文化資源の調査と適切な保存・継承						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野市が誇る歴史的人物である田中正造翁の偉業を市内外に広く伝えるために、小中町にある田中正造旧宅（栃木県指定史跡）の一般公開と維持管理を行う（一財）小中農教倶楽部に対して補助金を交付する他、説明ボランティア団体育成のための支援を行う。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	田中正造翁の偉業を広く伝え、誇れる郷土の歴史を後世に継承するため、田中正造旧宅一般公開事業の円滑な運営と財政の健全化、及び説明ボランティア団体の養成を支援する。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		年間入場者数	人	値が大まかいほど良い	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
		ボランティア従事者数	人	値が大まかいほど良い	20	20	20	20	20

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	【市の活動】 ・（一財）小中農教倶楽部への管理運営費補助金及び入場料補助金の交付事務 ・県指定文化財「田中正造旧宅」の維持管理、現状変更等に関する指導及び助言 【一般財団法人小中農教倶楽部の活動】 ・田中正造旧宅の一般公開及び維持管理 ・田中正造翁、カツ子夫人法要の実施 【共催】 田中正造旧宅説明ボランティア養成講座の実施（養成講座のメニューに視察研修を含めた）	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		開館日数	日	203	205	204	203
		説明ボランティア団体視察研修	回	0	1	1	1
		事業費計	千円	978	941	838	980
		一般財源	千円	978	941	838	
		特定財源（国・県・他）	千円				980
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	予定通り開館できたが、年間入場者数が減少した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		年間入場者数	人	861	1548	1140	942	効果が下がった	×
		ボランティア従事者数	人	14	14	13	14	効果が上がった	×

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	2指標			
	効果が上がった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標	達成	未達成	1指標
	効果が下がった指標数	1指標	目標達成	目標未設定	
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果は変わらない			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

関係者からボランティアガイドの担い手が不足しているとの意見があり、視察研修と合わせて、ボランティア養成講座を実施した。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 ボランティアガイドの担い手の確保。
---	-------------------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	郷土博物館指定管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予 算 科 目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課			款	10	新規or継続	継続事業
	係	文化財保護係			項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2322	名称	事業 期間	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		開始年度	R5	実施方法	指定管理者
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度		事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	郷土博物館において、運営の効率化、新視点での企画・展示及び柔軟で充実した職員配置などを実現することにより、来館者の増加や魅力度の向上を図るために、令和 5 年4 月1日から、指定管理制度を導入した。仕様の中で規定した業務に関するものについては指定管理料で一括で委託するが、市が行う業務（5万円以上の修繕費や火災保険料料など）については、市が予算化し業務を行う。
------	--

(2) 目的		(3) 目標値			↓選択して下さい		後期計画				
目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	建物・機械設備等を適切に管理し、展示室や収蔵施設の最適環境を維持することで、利用者が、安全で快適に施設を利用できる環境を保つ。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11		
		年間来館者数	人	値が大いほど良い	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000		
		佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合	%	値が大いほど良い	95	95	95	95	95		

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・企画展開催 4回 ・学校利用促進事業 ・講座 11メニュー	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		企画展開催数	回		4	4	4
		学校利用 来館児童数	人		2,626	2,549	2,518
		事業費計	千円	0	34,517	35,035	36,241
		一般財源	千円		34,205	34,701	36,023
		特定財源（国・県・他）	千円		312	334	218
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		年間来館者数	人		19,270	17,444	17,309	効果が下がった	×
効果説明	来館者数は微減したが、学校利用促進事業では、説明内容により衣装を着替えたり、クイズ形式にするなど、楽しんで学べるような工夫を凝らし、好評を得ている。	佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合	%		87.7	89.6	87.6	効果が下がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	2指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	2指標
	効果が下がった指標数	2指標	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

施設の老朽化に伴い、修繕箇所が増加している。 令和8年4月1日から令和11年3月31日までの3年間、公益財団法人佐野市民文化振興事業団が指定管理者として博物館運営を行う。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 優先順位を決めての修繕。
---	--------------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	郷土資料保存三好館維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名		予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課	郷土資料保存三好館維持管			款	10	新規or継続	継続事業
	係	文化財保護係	理事業			項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2322	名称		事業期間	目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	H16	実施方法	一部委託
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度		事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存						
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	郷土資料保存三好館を維持管理し、利用者に良好な環境を提供する。
------	---------------------------------

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	建物・機械設備等を適切に管理し、展示室や収蔵施設の最適環境を維持することで、利用者が、安全で快適に施設を利用できる環境を保つ。	（3）目標値		↓選択して下さい		後期計画			
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		良好に管理された資料数／収蔵資料数	%	値が大きいほど良い	100	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・施設の維持管理に係る消耗品の購入、光熱水費の支払 ・火災保険に加入 ・消防設備、し尿浄化槽の保守点検業務の委託(年間) ・植栽剪定 ・外部ガラス交換	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		管理・維持点検件数	件	2	2	2	2
		修繕件数	件	0	2	1	1
		事業費計	千円	260	287	1,415	378
		一般財源	千円	260	287	1,415	378
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	資料は良好に管理されている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		良好に管理された資料数／収蔵資料数	%	100	100	100	100	効果は変わらない	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果 (R7と過去3年平均 の指標値増減)	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果	効果が上がった指標数	0指標		達成	1指標	
	効果は変わらない指標数	1指標				
	効果が下がった指標数	0指標		未達成		
	指標全体	効果は変わらない				
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用は下がった	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

雨漏り箇所が数か所あり、計画的に修繕する必要がある。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 雨漏り修繕のため予算の確保。
---	----------------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	郷土資料保存三好館運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名		予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課	郷土資料保存三好館運営事業			款	10	新規or継続	継続事業
	係	文化財保護係				項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2322	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	博物館条例		開始年度	H16	実施方法	一部委託
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度		事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存						
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	郷土資料保存三好館を公開して郷土の歴史・民俗等に関する資料を保護活用し、郷土意識の高揚をはかることを目的とする。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	地元自治会との協働により、三好館の管理運営を行い、見学者の利便を図るとともに、地域の歴史と伝統を再認識していただき、郷土への愛着を育んでもらう。	（3）目標値		↓選択して下さい		後期計画			
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		開館日数／開館予定日数	%	値が大きいほど良い	100	100	100	100	100
		来館者数	人	値が大きいほど良い	100	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・管理運営業務を三好地区町会長に委託 ・戸室・船越・岩崎地区のボランティア8人が交代で開館業務を行う。 ・定時開館：毎月第2・第4日曜日	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		開館日数	日	24	24	24	24
		延べボランティア従事者数	人	48	48	48	48
		事業費計	千円	191	191	191	246
		一般財源	千円	191	191	191	246
		特定財源（国・県・他）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	予定通り開館できた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		開館日数／開館予定日数	%	100	100	100	100	効果は変わらない	○
		来館者数	人	53	30	72	49	効果が下がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果	
	目標未達成だった指標数	1指標		
	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない
	効果は変わらない指標数	1指標	1指標	
	効果が下がった指標数	1指標		効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が下がった		
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和7年度に委託料を見直しを実施したため事業費が増加した。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 予定通り開館できるように地元への協力依頼をする。
---	--------------------------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	博物館協議会運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生化石館				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2322	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	S58	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	審議会等運営事業
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存						
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						
				博物館法 佐野市博物館条例					

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	博物館の運営に関し教育委員会の諮問に応じるとともに、意見を述べる機関である、佐野市博物館協議会を年2回開催する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	事業が円滑で効果的に実施できるように、博物館の運営に関して委員から貴重な意見や助言を聴く。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		意見・助言数	件	値が小さいほど良い	22	22	22	22	22

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	佐野市博物館協議会 ・第1回会議 10月23日開催 7人出席 ・第2回会議 3月25日開催 7人出席	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		会議開催回数	回	2	2	2	2
		事業費計	千円	99	106	91	91
		一般財源	千円	99	106	91	91
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	予定通り年2回会議を開催し、貴重な意見をいただいた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		意見・助言数	件	20	21	26	20	効果が上がった	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果			
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
効果 (R7と過去3年平均 の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	目標達成	達成	1指標	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成		
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定		
	指標全体	効果が上がった				
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

事業が円滑で効果的に実施できるように、委員から貴重な意見や助言をいただいており、今後も必要な機会である。今後も多くの委員に参加していただく。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 現状を維持する。
---	----------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	日本博物館協会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	教育部	日本博物館協会参画事業	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	文化財課			款	10	新規or継続	継続事業	
	係	葛生化石館			項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2322	名称	根拠法令、条例等	目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	博物館法 佐野市博物館条例	事業期間	開始年度	S58	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度	-	事業分類	参画事業	
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存						
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	日本博物館協会に加盟することにより、全国の博物館やその他の類似施設との会員相互の交流を深め、各種情報や協力を得ることで郷土博物館事業の発展を図る。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	館の運営について、他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会・手段を得る。また、関係博物館との連携・協力の緊密化を図る。	（3）目標値		↓選択して下さい		後期計画			
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		参画で情報を集められた館職員の割合	%	値が大きいほど良い	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		参画の意義を認める館職員の割合	%	値が大きいほど良い	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・市の活動 日本博物館協会に負担金(30千円)を支出し、機関誌等を収集する。 ・日本博物館協会の活動 全国大会・全国博物館長会議・指導者研究協議会・講演会等を開催し、『博物館研究』や『全国職員録』等を発行し、会員に提供している。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		機関誌収集数	部	12	12	12	12
		会議・研究会参加数	回	0	0	0	0
		事業費計	千円	30	30	30	30
		一般財源	千円	30	30	30	30
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	会議等には参加できなかったが、機関誌等から情報を得られた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		参画で情報を集められた館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	効果は変わらない	○
		参画の意義を認める館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	効果は変わらない	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	2指標
	効果は変わらない指標数	2指標		未達成	
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定	
	指標全体	効果は変わらない			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

他館の状況や活動・動向に関する情報が得られており、日本博物館協会に参画することは必要である。今後は会議等に参加し情報を得る。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	<table><tr><td>取組説明</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">現状を維持する。</td></tr></table>	取組説明		現状を維持する。	
取組説明					
現状を維持する。					

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	栃木県博物館協会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生化石館				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2322	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	S58	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	参画事業
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存						
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						
				博物館法 佐野市博物館条例					

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	栃木県博物館協会で開催される研究会・研修会・視察・見学会等に積極的に参加することによって、会員相互の交流を深め各種の情報や協力を得ることで郷土博物館事業の発展を図る。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	館の運営について、他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会・手段を得る。また、教育普及活動及び展示等に関する技術の向上を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		参画で情報を集められた館職員の割合	%	値が大きいほど良い	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		参画の意義を認める館職員の割合	%	値が大きいほど良い	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・市の活動 栃木県博物館協会に負担金(5千円)を支出。 ・栃木県博物館協会の活動 総会・研究会・講演会・視察研修会を開催し、機関誌を発行している。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		機関誌収集数	部	1	1	1	1
		会議・研究会参加数	回	0	2	1	1
		事業費計	千円	5	5	5	5
		一般財源	千円	5	5	5	5
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	会議に参加し情報が得られた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		参画で情報を集められた館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	効果は変わらない	○
		参画の意義を認める館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	効果は変わらない	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	2指標
	効果は変わらない指標数	2指標		未達成	
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定	
	指標全体	効果は変わらない			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

他館の状況や活動・動向に関する情報が得られており、栃木県博物館協会に参画することは必要である。今後も会議等に参加し情報を得る。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	<table><tr><td>取組説明</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">現状を維持する。</td></tr></table>	取組説明		現状を維持する。	
取組説明					
現状を維持する。					

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	葛生伝承館企画展等開設事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生伝承館				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2322	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	H16	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	イベント等開催事業
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存						
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						
				博物館法 佐野市博物館条例					

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	県指定有形民俗文化財「吉澤人形頭」、県指定無形民俗文化財「牧歌舞伎」関連資料を中心に、佐野市に伝わる神楽・歌舞伎・節句人形などの伝統芸能や民族資料を企画展で展示・紹介する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	多くの優れた佐野市の文化や芸能に関する資料を集め、より多くの人に鑑賞してもらえるようにする。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		企画展開催期間中入館者数/市人口	%	値が大きいほど良い	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
		期間中入館者数前年度対比	%	値が大きいほど良い	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

（3）目標値

↓選択して下さい

後期計画

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・「佐野土鈴展」 4月1日(火)～6月22日(日)〔71日間〕 ・「牧歌舞伎展」 7月12日(土)～9月23日(火)〔63日間〕 ・「吉澤人形頭展」 10月8日(水)～12月14日(日)〔57日間〕 ・「雛人形展」 1月4日(日)～3月8日(日)〔47日間〕 ・「五月人形展」 3月20日(金)～3月31日(火)〔10日間〕	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		企画展開催期間中入館者数	人	5,929	6,023	9,652	8,346
		企画展開催期間日数	日	254	240	246	248
		企画展の内容に満足した入館者/アンケート回答者	%	83.8	89.5	89.4	90.3
		事業費計	千円	157	171	168	172
		一般財源	千円	157	171	168	172
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	企画展開催期間中入館者数は減少したが、内容に満足した入館者の割合は増加した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		企画展開催期間中入館者数/市人口	%	5.1	5.3	8.5	7.5	効果が上がった	○
		期間中入館者数前年度対比	%	109.7	101.6	160.3	86.5	効果が下がった	×

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	目標達成	達成	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	1指標
	効果が下がった指標数	1指標			
	指標全体	効果は変わらない			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

企画展開催期間中入館者数は減ったが、内容に満足した入館者の割合は増えているので喜んでいただけた。入館者が増えるよう内容等を検討する。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 入館者が増えるよう内容等を検討する。
---	--------------------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	葛生伝承館維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし		コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	文化財課		葛生伝承館維持管理事業		款	10	新規or継続	継続事業	
	係	葛生伝承館				項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2322	名称		根拠法令、条例等	目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		博物館法 佐野市博物館条例	事業期間	開始年度	H16	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業	
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存							
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進							

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	葛生伝承館の施設や設備を整備して、利用者に良好な環境を提供する。
------	----------------------------------

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	施設を安全で良好に維持管理する。入館者が不都合なく安全に利用できる。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		施設が安全で良好に使われた割合	%	値が大きいほど良い	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・清掃業務委託、機械警備業務委託 ・くん蒸の実施（年1回） ・空調設備、消防設備の保守点検の実施（年2回） ・建物損害共済保険の加入	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		くん蒸回数	回	1	1	1	1
		保守点検回数	回	4	4	4	4
		修繕件数	件	1	0	2	1
		事業費計	千円	4,318	3,888	4,878	4,944
		一般財源	千円	4,318	3,888	4,878	4,944
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	修繕は1件あったが大きなトラブルにはならなかった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		施設が安全で良好に使われた割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	効果は変わらない	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	1指標
	効果は変わらない指標数	1指標		未達成	
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定	
	指標全体	効果は変わらない			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し		※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

施設が老朽化しているため、施設トラブルがないようこまめに点検を行う。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 現状を維持する。
---	----------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	葛生伝承館講座等開設事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生伝承館				項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2322	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H16	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	イベント等開催事業
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存						
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						
			博物館法 佐野市博物館条例						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	生涯学習の場として、子供から大人まで利用していただけるような体験講座等を企画開催する。受講者は広報・HP等を通じて募集する。また、出張講座を希望する学校等に出かけて講座を実施する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	郷土に関わりのある伝統・文化・芸能に対し、興味を持ってもらう。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		講座を面白いと感じた参加者/アンケート回答者	%	値が大きいほど良い	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0

（3）目標値

↓選択して下さい

後期計画

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・こどもの日 民話語り 5月5日(月・祝) ・フレスコ画解説と歌のコンサート 5月17日(土) ・土鈴を作ろう 10月25日(土) ・羽子板を彩ってみよう 11月19日(水) ・アンモナイトの型で土鈴作り 1月25日（日）、2月23日（月・祝） ・出張講座 佐野土鈴について 11月20日（木）	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		受講者数	人	85	147	84	126
		講座開設数	回	3	4	6	6
		事業費計	千円	0	8	19	0
		一般財源	千円	0	8	17	0
		特定財源（国・県・他）	千円			2	
		（うち受益者負担）	千円			2	

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	受講者数・講座を面白いと感じた参加者数とも、前年度より増加した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		講座を面白いと感じた参加者/アンケート回答者	%	90.7	93.1	76.9	100	効果が上がった	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均 の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	目標達成	達成	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定	
	指標全体	効果が上がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

受講者数・講座を面白いと感じた参加者の割合ともに増え、伝統文化に興味を持ってもらえた。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 現状を維持する。
---	----------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	葛生伝承館運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし		コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生伝承館				項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2322	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	H16	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存						
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						
				博物館法 佐野市博物館条例					

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	葛生伝承館を運営するための事業。資料の収集整理・管理・学芸業務補助のため会計年度任用職員を任用する。また、収集資料の修繕や受付業務の委託、調査などに係る旅費、事務用経費、展示品の修繕などを行っている。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	展示資料を見学することにより地域の伝統・文化を知ってもらう。入館者に利用しやすい環境を整える。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		入館者数/市人口	%	値が大きいほど良い	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・会計年度任用職員による事務・展示・資料管理・施設管理・受付業務補助 ・受付業務委託 ・パソコン及び周辺機器・デジタルフルカラー複合機の借上げ ・各種事務用消耗品の購入	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		入館者数	人	5,929	6,023	9,652	8,346
		収集資料数	点	851	893	912	912
		事業費計	千円	6,488	7,295	8,113	8,704
		一般財源	千円	6,479	7,278	8,093	8,679
		特定財源（国・県・他）	千円	9	17	20	25
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	入館者数・市民に対する割合とも減少した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		入館者数/市人口	%	5.1	5.3	8.5	7.4	効果が上がった	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均 の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	目標達成	達成	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	
	効果が下がった指標数	0指標	目標未設定		
	指標全体	効果が上がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

入館者数・市民に対する割合とも減少した。内容等を検討する。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 内容等を検討する。
---	-----------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	葛生化石館企画展等開設事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	文化財課				款	10	新規or継続	継続事業	
	係	葛生化石館				項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2322	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			事業期間	開始年度	H14	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	イベント等開催事業	
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存							
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進							
				博物館法 佐野市博物館条例						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	常設展とは別に、短期間で自然や化石・地質に関することを企画・展示する。これはテーマごとに深く掘り下げて知的好奇心を刺激するため、保管する収蔵品や他館の資料を借用して行う。また、企画展の関連講座を実施する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	より多くの人に佐野市から豊富に産出される化石や鉱物などを通じ、自然科学について関心を持ってもらう。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		企画展開催期間中入館者数/市人口	%	値が大きいほど良い	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
		期間中入館者数前年度対比	%	値が大きいほど良い	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・企画展「洞窟展～地下に広がる不思議な世界～」 7月19日(土)～11月24日(月・祝)〔109日間〕 ・企画展「第20回新着標本展」 1月17日(土)～3月31日(火)〔61日間〕 ・企画展関連講演会 「氷河期の日本列島～穴にもぐる古生物学者～」 10月18日(土)講師：西岡佑一郎氏 ・企画展関連講座 「洞窟の中の生き物達」 11月24日（月・祝）講師：新部一太郎氏	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		企画展開催期間中入館者数	人	13,721	12,092	16,640	15,981
		企画展の内容に満足した入館者/アンケート回答者	%	94.0	97.9	95.9	95.7
		講演会参加者数	人	45	35	29	30
		事業費計	千円	133	119	398	315
		一般財源	千円	133	119	398	315
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	企画展開催期間中入館者数・内容に満足した入館者の割合とも減少した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		企画展開催期間中入館者数/市人口	%	11.9	10.5	14.7	14.3	効果が上がった	○
		期間中入館者数前年度対比	%	138.4	88.1	137.6	96.0	効果が下がった	×

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	目標達成	達成	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	
	効果が下がった指標数	1指標			1指標
	指標全体	効果は変わらない	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

企画展開催期間中入館者数・内容に満足した入館者の割合とも減っているので、内容等を検討する。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	<table><tr><td>取組説明</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">内容等を検討する。</td></tr></table>	取組説明		内容等を検討する。	
取組説明					
内容等を検討する。					

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	葛生化石館維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課			款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生化石館			項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2322	名称	根拠法令、条例等	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わつまちづくり	博物館法 佐野市博物館条例	開始年度	H14	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存					
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	葛生化石館の施設や設備を整備して、利用者に良好な環境を提供し、化石館で収集・保管・展示する貴重な資料の保存を図る。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	施設・設備・収蔵資料の良好な維持管理を図る。入館者が不都合なく安全に利用できる。	（3）目標値		↓選択して下さい		後期計画			
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		施設トラブル件数	件	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0
		適切な収蔵資料件数/収蔵資料総数	%	値が大きいほど良い	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・照明器具等維持管理のための消耗品の購入 ・常設展示物動産保険の加入 ・くん蒸の実施（年1回） ・空調設備の保守点検の実施（年2回） ・公用車の維持管理	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		くん蒸回数	回	1	1	1	1
		保守点検回数	回	2	2	2	2
		事業費計	千円	1,485	2,916	1,487	1,974
		一般財源	千円	1,485	2,916	1,487	1,974
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	施設トラブルもなく良好に管理している。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		施設トラブル件数	件	0	0	0	0	効果は変わらない	○
		適切な収蔵資料件数/収蔵資料総数	%	100.0	100.0	100.0	100.0	効果は変わらない	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	2指標
	効果は変わらない指標数	2指標		未達成	
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定	
	指標全体	効果は変わらない			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

施設が老朽化しているため、施設トラブルがないようこまめに点検を行う。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
	現状を維持する。

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	葛生化石館講座等開設事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生化石館				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2322	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	H14	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	イベント等開催事業
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存						
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						
				博物館法 佐野市博物館条例					

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	生涯学習の場として、子供から大人まで利用していただけるような体験講座等を企画開催する。受講者は広報・HP等を通じて募集する。また、出張講座を希望する学校等に出かけて講座を実施する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市民の文化教養を高め、学習意欲の向上を目指す。より多くの人に佐野市から豊富に産出される化石や鉱物などを通じ、自然科学について関心を持ってもらう。
-------------------------	--

（3）目標値

↓選択して下さい

後期計画

効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
受講者数/市人口	%	値が大きいほど良い	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
受講者数前年度比	%	値が大きいほど良い	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・展示解説ボランティア養成講座 4月26日(土) ・地質の日記念事業「化石とあそぼう」 5月10日(土) ・化石の日記念事業「化石とまなぼう」 10月12日(日) ・化石採集教室 7月26日(土)、3月20日(金) ・ジオウォーキング 11月3日(月)、 ・出張講座を実施
--------------------------	---

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
受講者数	人	656	842	1,088	850
自主講座開設数	回	6	6	9	9
出張講座数	回	8	9	9	9
事業費計	千円	102	40	135	31
一般財源	千円	43	0	45	0
特定財源（国・県・他）	千円	59	40	90	31
（うち受益者負担）	千円	59	40	90	31

（3）活動による効果

効果説明	受講者数・市民に対する割合とも減少した。
------	----------------------

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
受講者数/市人口	%	0.6	0.7	1.0	0.8	効果が上がった	○
受講者数前年度比	%	245.7	128.4	129.2	78.1	効果が下がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標
	目標未達成だった指標数	1指標
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	1指標
	指標全体	効果は変わらない
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用は下がった	

効果		
	効果が上がった	効果は変わらない
目標達成	達成	1指標
	未達成	
	目標未設定	1指標

※ 1 0 万円以上の増減により判断

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

受講者数・市民に対する割合ともに減少しているので、内容等を検討する。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

- ☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成）
- ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む）
- ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討
- ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討
- ☒ その他の検討
- ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明
内容等を検討する。

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	葛生化石館運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし		コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生化石館				項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2322	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H14	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	歴史・文化資源の継承と保存						
	基本事業	2	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						
				博物館法 佐野市博物館条例					

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	葛生化石館を運営するための事業。資料の整理・管理・学芸業務補助のため会計年度任用職員を任用する。また、事務用経費、ボランティア活動支援、展示用パネルや標本作製などを行っている。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	より多くの人に佐野市から豊富に産出される化石や鉱物などを通じ、自然科学について関心を持ってもらう。入館者に利用しやすい環境を整える。
-------------------------	--

（3）目標値

↓選択して下さい

後期計画

効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
入館者数/市人口	%	値が大きいほど良い	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0
広報紙・情報誌等掲載回数	回	値が大きいほど良い	30	30	30	30	30

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・会計年度任用職員による事務・施設管理・学芸業務補助 ・ボランティアによる事業・講座補助、勉強会、視察研修 ・パソコン及び周辺機器・デジタルフルカラー複合機の借上げ ・各種事務用消耗品の購入
--------------------------	--

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
入館者数	人	16,606	16,481	22,495	20,136
収蔵資料数	点	2,201	2,230	2,238	2,238
事業費計	千円	3,513	3,652	4,512	4,837
一般財源	千円	3,453	3,584	4,452	4,785
特定財源（国・県・他）	千円	60	68	60	52
（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	入館者数・広報紙等掲載回数ともに前年度より減少した。
------	----------------------------

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
入館者数/市人口	%	14.4	14.4	19.8	18.1	効果が上がった	○
広報紙・情報誌等掲載回数	回	44	39	49	45	効果が上がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標
	目標未達成だった指標数	0指標
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	0指標
	指標全体	効果が上がった
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用が増加した

		効果		
		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
目標達成	達成	2指標		
	未達成			
目標未設定				

※ 1 0 万円以上の増減により判断

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

情報誌等の取材に積極的に対応したが、入館者数・広報紙等掲載回数ともに前年度より減少した。周知方法や内容等を検討する。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

- ☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成）
- ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む）
- ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討
- ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討
- ☒ その他の検討
- ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明
周知方法や内容等を検討する。